

2016年12月2日

報道関係各位

一般社団法人 日本電気計測器工業会(JEMIMA)

電気計測器の中期見通し2016～2020年度

2016年度の電気計測器全体の売上見込みは 5,816億円(前年度比+2.2%)、
2017年度以降は緩やかな増加基調の見通し

一般社団法人日本電気計測器工業会(会長 小野木 聖二)は、当工業会の統計データをもとに2020年度までの電気計測器の需要見通し調査を行い、冊子「電気計測器の中期見通し2016～2020年度」を発行いたしました。

電気計測器全体(国内売上+輸出)の2015年度実績は、大幅な伸びが期待された電力量計をはじめ、放射線計測器以外の通信機器関連、自動車関連、エネルギー関連への投資の増加により、計測器全体で5,760億円(前年度比+8.1%)と見込みましたが、実績は5,690億円(前年度比+6.8%)でした。

製品群別では、「電気測定器、環境計測器、放射線計測器」は前年度比で微減となりました。一方、増加した製品群としては、主に電力量計で、スマートメーター導入に伴う低圧計器の増加(前年度比+55.9%)が大きく、またPA計測制御機器での新興国向けインフラ需要による輸出の伸長が挙げられます。

2016年度は、円高、世界経済の先行き不透明感の強いなか、官公需の伸長が期待されており、電気測定器、PA計測制御機器、環境計測器、放射線計測器はほぼ横ばいの見込み。電力量計は、各電力会社のスマートメーター導入計画に伴い引き続き大幅な伸びが期待されます。トータルでは5,816億円(前年度比+2.2%)を見込みました。

2017年度以降は、全ての製品群で横ばい、または微増傾向を見通しており、2016～2020年度の年平均成長率は+0.9%と電気計測器全体では緩やかな増加基調となる見通しです。

海外拠点の売上を含む「国内売上+輸出+海外拠点売上」の2015年度実績は、海外拠点売上の減少があったものの、前年度比+4.6%の7,809億円となりました。2016年度は、国内市場がインフラ整備や設備投資意欲の増加などにより売上が増加、また海外拠点売上も資源、エネルギー関係が増加すると見込まれることから、前年度比+2.3%の7,992億円を見込みます。2017年度以降は、世界的に堅調な景気回復を見通し、売上は2020年度まで微増(年平均成長率+1.1%)で推移し、8,362億円になるものと見通しました。

なお、本日発行・発表の「電気計測器の中期見通し2016～2020年度」は有料で頒布致します。

「電気計測器の中期見通し2016～2020年度」発行・発表会の開催概要:

- ・ 主 催: 一般社団法人日本電気計測器工業会 調査・統計委員会
- ・ 開催日時: 2016年12月2日(金) 13:30～17:00
- ・ 場 所: 全国町村会館
- ・ 参加人数: 約100名

発行刊行物: 書籍名「電気計測器の中期見通し2016～2020年度」

発 行 日: 2016年12月2日

頒 布 価 格: 一 般 : ¥8,640—(税込・送料別)

JEMIMA 会 員 : ¥3,240—(税込・送料別)

【「電気計測器の中期見通し2016～2020年度」の主な内容】

【掲載内容】

序

第1章 本書の使い方

第2章 中期見通しの概要

第3章 電気測定器（一般測定器）

第4章 P A計測制御機器

第5章 電力量計（計器）

第6章 環境計測器

第7章 放射線計測器

第8章 工業会自主統計

